

全国協議会 ニュース

2022年4月1日発行 第356号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

「AYA世代」のがん患者の悩みや課題に寄り添う 岐阜市民病院に支援チーム発足

AYA世代では年間2万人のがんと診断されると言われていますが、小児がんと成人がんが混在しており、また、多診療科にわかれているため、その世代の患者さんは孤立しやすい状況にあります。AYA世代の患者さんの支援を行っている医療機関からご寄稿をいただきました。

こんにちは。私たちは、岐阜市民病院のAYAサポートチームです。この度、皆様の会報誌に掲載させていただくというご縁をいただきました。まず初めに、当院の紹介をさせていただきます。岐阜市民病院は、岐阜県の県庁所在地である岐阜市に所在する公立病院です。いわゆる総合病院で、多くの救急患者さんの対応や、昨今では新型コロナウイルス感染症の患者さんも受け入れています。また、地域がん診療連携拠点病院の指定も受けています。なかでも、白血病などの血液のがんについては東海地区だけでなく全国的にも治療件数が多く、小児から成人まで全年代に対応しています。ドナーさんに関係するところでは、当院は骨髄と末梢血幹細胞の両方で採取と移植が可能な施設です。そのため、毎年多くのドナーさんに当院に入院いただき、採取させていただいていますので、もしかしたらこの記事を読まれている方の中にも当院で提供いただいたドナーさんがいるかもしれません。

次にAYAサポートチームを結成した経緯を説明します。まず、AYA世代とは、思春期と若年成人の英語の頭文字で、おおよそ15歳～39歳ぐらいまでの方をさします。この世代の方々には、学業や就職、恋愛や結婚、出産、子育てなど、人生の中で大切な多くのライフイベントを迎えられます。ただでさえ変化の大きい世代であるにも関わらず、がんという病気が加わることで、さらに悩まれてしまいます。しか

しながら、がん患者さん全体からすると少数派になってしまうため、これまで十分な支援が行き届いていませんでした。そんな中、国は「がん対策推進基本計画」の中でAYA世代の支援を重要課題としてとりあげました。その流れをくみ、岐阜県から当院にAYA世代のがん患者の支援を拡げる活動への取り組みを依頼されました。当院では、以前より小児科と血液内科が連携してAYA世代の患者さんの支援を積極的に行っていました。しかし、それは当院で治療する血液のがん患者さんに限られており、その他のがん患者さんや他院で治療する患者さん、院内他部署や他院の医療従事者に知られることは限定的でした。自院での活動を発展させようとしていたところに行政からの追い風を受け、AYAサポートチームを結成するに至りました。

チームには医師、看護師の他に、薬剤師、リハビリ技師、公認心理士、がん相談員など多種多様なスタッフが参加しています。医師は小児科と血液内科だけでなく、産婦人科医も参加し、比較的若年で発症する婦人科系のがん患者さんへの支援だけでなく、妊娠する力を残す「妊孕性の温存」に関してもサポートしています。また、スタッフの中には自身ががんを経験した者もあり、同じ病気を体験した者としての支援も行っています。

チームは、院内での活動だけでなく、地域の医療従事者向けにセミナーを開催したり、地域のショッピングセ



ンターや公共施設でイベントを開催したりして、多くの方にAYA世代のがんについて知ってもらう活動も行っています。また、昨年末にはAYA世代の方が多く利用しているSNSのInstagramに公式アカウント(gmhosp_aya_supportteam)を作成し、情報発信も行っていますので、ご利用されている方はぜひフォローをお願いします。

最後に、ドナー登録をしていただくということだけで、血液疾患の患者さんやその治療を担う医療者としては大変心強く、感謝の気持ちでいっぱいです。さらに、皆さんにAYA世代のがんという課題を知っていただき、より多くの方に支援の輪が広がり、一人でも多くの患者さんの生活の質が向上することを願っています。

(岐阜市民病院

AYAサポートチーム
がん相談員 服部佳朗)



骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDFP(3月15日発行)より抜粋)

■日本骨髄バンクの現状(2022年2月末現在)

	1月	2月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,452	2,095	538,181	884,968
患者登録者数	213	192	1,839	63,749
移植例数	78 (15)	83 (21)	—	26,382 (1,491)

※()内は末梢血幹細胞移植の実施数(国際間含む)

■2月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/794人、献血併行型集団登録会/1,243人、集団登録会/0人、その他/58人

■2月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 3,017人/20代 84,727人/30代 136,440人
40代 220,979人/50代 93,018人

■2月の20歳未満の登録者199人

■2月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：1,442件(国内ドナー→国内患者)

(注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

ブロックセミナー開催 ①

全国協議会では地域ごとに「ブロックセミナー」を開催し、全国各地でボランティア活動を行っているグループに呼びかけ、各地区での活動状況の報告や意見交換等を行っています。今年度最初のブロックセミナーは中四国地区で開催されました。3面では関東甲信越地区の様子をお伝えします。

3月6日(日)全国的な新型コロナウイルス感染症拡大が続く中、全国協議会事務局の協力で、Zoomを使用した中四国地区のブロックセミナーを無事開催することができました。3年ぶりの開催となった今回、山口県から4人、香川県からは1人、徳島県から2人、そして田中重勝理事長、事務局スタッフ2名の総勢10人の参加となりました。

はじめに、田中理事長より全国協議会の活動状況及びブロックセミナーにおける各団体からの意見集約等について説明がありました。

その後、各地でのコロナ禍における活動報告が行われました。山口県では大学病院の小児科病棟へのプレゼントの贈呈、香川県ではコロナ禍においても定期的に登録会を開催している状況であること、徳島県では地元議員への陳情を通じて、県内全市町村でのドナー助成制度の導入に向けた活動状況について、それぞれ報告していただきました。皆様の精力的なご活躍に心から感謝するとともに、元患者として本来にありがたく、皆様の存在の心強さを改めて感じる事ができました。



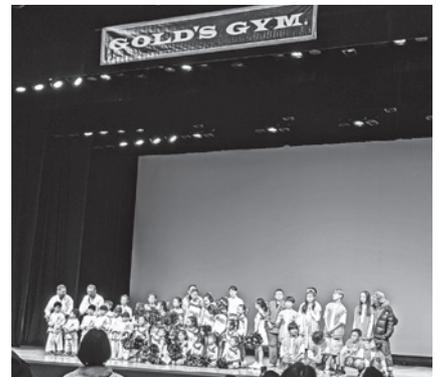
事務局からは、全国協議会が現在取り組んでいる「クラウドファンディング」についての説明と協力のお願ひがありました。説明を聞き、着実に支援の輪が広がっていること、これを継続していくことの重要性を皆様と共有できたかと思ひます。

意見交換会では、コロナ禍における各地での登録会での苦労話や工夫したこと、日赤職員との連携、募金箱の設置・運用等について活発な意見交換が展開されました。今まで誰も経験したことのないコロナ禍での厳しい活動状況の中、それぞれの取り組み方がとても参考になりました。各地でのドナー登録会での状況や課題も含め、多くのことをお聞きする中で、今後の取り組み方を検討する際の大きなヒントを与えていただいたと思っています。さらにZoomというオンラインを通してで

すが、各地ボランティアの皆様と久しぶりにお会いすることができ、今後の活動の活力になりました。

(担当理事 山口明大)

ゴールドジム 関西スクール発表会



春の気配をようやく感じるようになった2月26日(土)、ゴールドジム関西スクール発表会に寄付拝受にうかがいました。今回の会場は名高い西宮神社のそばにある西宮アミティホール(兵庫県西宮市)でした。

昨年よりさらに少なくなってしまったプログラムでしたが、コロナ禍にも負けない空手やチアダンスなどのパフォーマンスに励まされました。

来年こそは、マスクもいらないオープンな発表ができますように、心から願っております。長きにわたってのゴールドジム様の温かいご支援に感謝申し上げます。

(理事 浅野祐子)

「東京マラソン 2021」にチャリティランナーが参加

3月6日(日)に「まん延防止等重点措置」中でしたが、「東京マラソン 2021」が開催されました。「東京マラソン 2020」で100人の方が、全国協議会をチャリティ先として選んでくださいました。東京マラソン 2020はコロナ禍で一般ランナーのランは中止になり、出走権が延期になりました。

100人の内「東京マラソン 2021」でこの権利を行使された方は27人で、最終的に19人が出走し、完走者は18人でした。一番早い方は3時間を切っており大変な記録です。

全国骨髓バンク推進連絡協議会は、東京マラソン財団チャリティ RUN with HEARTの寄付先団体です。

参加ランナーへは、以下の直前応援メッセージを送り、当日はテレビ前で応援しました。

「全国骨髓バンク推進連絡協議会事務局でございます。平素より当協議会の活動にご理解とご協力を賜り、また東京マラソン 2020でチャリティランナーとして当協議会を寄付先団体へ選定下さり、心から感謝申し上げます。皆様におかれましては、コンディショニングに加えコロナ感染拡大防止対策の準備でお忙しいことと存じます。本来ですと当協議会は寄付先団体として

皆様へ沿道応援や完走後のホスピタリティ等の対応をさせていただくところですが、その実施がかなわず大変残念な気持ちでございます。しかし開催当日は、ご寄付によりご支援いただきました患者さん、関係者の皆さんと共に感謝の気持ちを込めて、テレビの前で一生懸命応援させていただきます。この大会が皆様にとって良い思い出となりますことを心より願っております。ぜひこの2年間の熱い想いを胸に、思う存分楽しんで走ってください！」

(副理事長 梅田正造)



ブロックセミナー開催 ②

3月20日(日)、「コロナ禍を乗り越えるために」というテーマの元に、関東甲信越地区のブロックセミナーを開催しました。コロナ禍が続く中、昨年引き続き本年もZoomでの開催となりました。

埼玉の会から4人、東京の会から1人、千葉の会から8人、神奈川の会から2人、命のアサガオにいがたから1人、全国協議会事務局から2人の参加をいただきました。今回は「コロナ禍を乗り越えるために」をテーマとし、ドナー登録推進活動を中心とした各地での活動報告がなされました。

神奈川の会からは、16の大学での献血会場設置に合わせた学生へのドナー登録のアプローチ、埼玉の会からは、2月27日(日)に行われた「患者・家族交流会」、2人の新しい説明員の紹介、献血ルームや献血会場でのドナー登録会、自衛隊での登録活動等についてそれぞれ報告がありました。

また、東京の会からは松下倫子さんの報告書を元に、コロナ禍での献血ルームや献血会場での苦戦状況、説明



2022年3月20日(日)13~15時、関東甲信越地区ブロックセミナー(ZOOM)
 埼玉骨髄バンク推進連絡会: 笠原慶一、松井道、大谷貴子、館野守男
 千葉骨髄バンク推進連絡会: 梅田正造、西島隆史、西島一恵、溝口理文、河口柳子、久永幸子、萩原匡祐、志田和子
 骨髄バンクを支援する東京の会: 若木暎、骨髄バンク命のアサガオにいがた: 高野由美子
 神奈川骨髄移植を考える会: 村上忠雄、岩崎真一郎 (合計5団体 16名)
 全国骨髄バンク推進連絡協議会事務局: 栗山洋久、吉田幸子 参加者総計 18名

員の不足という問題が取り上げられました。更に千葉の会からは1991年度からの登録会の開催実績、1993年度からのドナー登録者の推移、更にコロナ禍で激減したドナー登録状況の分析による説明などがありました。また、毎年参加をしてくださっている命のアサガオにいがたからも、地道なドナー登録推進活動の活動報告がなされました。

全国協議会の梅田正造副理事長からは、ブロックセミナーの7つの地区割

り、及び今までの開催実績、加盟団体の推移、加盟団体と全国協議会の関係のあり方の課題、会費変更による加盟率向上の必要性、各地での医療講演会開催の推進、1992年度からの全国のドナー登録者の推移等の説明がありました。

若木換副理事長からは、きち子基金存続のためのクラウドファンディングのお話がありました。第二目標の1,000万円に向けて各方面からご協力をいただきたく、更なる情報発信をお願いしたいと思います。

コロナ禍は、ドナー登録者の減少、献血者の減少、医療ひっ迫による患者さんの治療の遅れ、入院患者さんへの面会制限、感染時の重症化リスクなど、患者さんにとって様々な弊害をもたらしています。ぜひともコロナ禍を乗り越える方法及び早く終息させる方法を皆さんで考え、また、来年度のブロックセミナーはリモートではなく会場に一同に集まり開催できることを願っております。

(担当理事 館野守男)

中野中学の生徒さん来訪

2月18日(金)中野区立中野中学校の2年生4人が総合的な学習の時間における「社会貢献活動調査」で全国協議会に来られました。骨髄バンクについての説明をした後、ボランティア活動について様々な質問を受けました。骨髄バンクの必要性やこれからの生き方を考える機会になってくれたらうれしいです。生徒さんから感想文をいただきましたので紹介します。

「ドナー」という言葉を初めて知ったのは、全国骨髄バンクについて調べてからです。

ドナーになり骨髄の提供を行うことは究極のボランティアと言われていきます。その理由は見ず知らずの人に全身麻酔をしてまで骨髄を提供するからです。ドナーとなった方や今なお苦しんでいる患者さんのために活動をされている全国骨髄バンク推進連絡協議会の方々の話を聞いて、私は社会貢献についての多くのことを学びました。

お話を聞いている中で特に印象に

残ったことは、ドナー登録や募金以外にも自分たちにもできることがあるということです。それは、私たちが患者さんやドナーの方への正しい理解を深めるだけでも患者さんたちのためになるということです。骨髄バンクのみなさんは「患者さんのつらさを分かったつもりにならないようにすること」を心掛けているとおっしゃっていました。患者さんの気持ちは、自分には想像できないものです。想像できないなりに、配慮できるようにしたいと思いました。社会貢献活動とは、常にその活動を行うことがすべてではなく、土日や休みの日だけ活動するだけでもい



いことも分かったので、自分にできることをできる範囲で今までの意識を変えていきたいと思いました。

今回の調査を通して、私は日常生活では経験できない様々なことを知ることができました。この経験を今後の職業や生活、ドナーの方や患者さんに出会った時の関わり方に活かしていきたいです。お話しをしてくださった事務所の皆様、今回はありがとうございました。

「全国骨髄バンクボランティアの集い」開催迫る!

Zoom ウェビナーを利用してパネルディスカッションを配信します。どなたでもご視聴いただけますので是非ご覧ください。

開催日: 2022年5月28日(土)14時から

内容: 「末梢血幹細胞提供の体験談」「患者家族からのメッセージ」他

視聴方法: 右の二次元バーコードまたは協議会ホームページよりお申込みください。当日申込もOKです!



各地のたより
各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

北海道
**チャリティーコンサート
開催**

収益金はクラウドファンディングへ



年明けからオミクロンの猛威とほぼ10年振りとなる大雪に見舞われた札幌。さらに2月下旬にはロシアのウクライナ侵攻が始まり、何とも気分の晴れないまま迎えた3月5日(土)に、ほぼ10年振りとなる骨髄バンクチャリティーコンサートを開催しました。

春待ちコンサートと銘打ったこのコンサートは、20年間ベルリン芸術大学で指導者として活躍し現在は札幌を拠点に活動をしているピアニストの大平由美子さんと、札幌交響楽団首席チェロ奏者の石川祐志さんのお二人をお迎えし、骨髄バンクのPRや収益金を患者支援基金へ寄付することをめざしての開催です。

普段クラシック音楽になじみのないお客様でも楽しめるようなおなじみの名曲も配されたプログラムに加え、大平さんと石川さんのステージトークでは、ラフマニノフのヴォカリーズについて「こんな美しい曲が生まれた国がどうして戦争を…」とのメッセージもあり、終演後、このメッセージと音楽に深い感銘を受けたという声が多く寄せられました。

まん延防止や大雪による交通事情の悪化が重なり、集客には大苦戦を強いられましたが何とか黒字になり、加えて会場募金も8万円を超える額が集まりましたので、目標とした患者支援基金への寄付を実現することができました。

快くボランティア出演をお引き受けくださったお二人と応援してくださ

たすべての皆様に紙面を借りて深く感謝を申し上げます。

(北海道骨髄バンク推進協会
畠山茂房)

※3月5日(土)19:00 札幌コンサートホールキタラ小ホールにて開催。収益金と会場募金合わせて23万円余は全額クラウドファンディングと淳彦基金に寄付。



沖縄

コロナ禍における
高等学校での登録会

沖縄県では毎年1月から2月上旬は高等学校での卒業献血が集中しており、献血並行型登録会も多く行われてきました。2017年1月~2月はこの時期に24校で献血並行型登録会が実施され、507人の登録がありました。同年2月の当会定例会に参加して沖縄県における高校での登録会実態を知った野村正満理事長(当時)は、「若年層ドナー登録は難題ではない/沖縄に学ぶ解決策」と題して全国協議会ニュース(298号)に寄稿しています。

しかしながら、新型コロナウイルス(特にオミクロン株)感染の急拡大とともに高校での登録会は大きな影響を受けました。

今年1月から2月上旬は35校の高等学校献血が計画されていましたが、12校で献血が中止となりました。残り23校の内、16校は対面で説明をする骨髄バンク登録会は不可となり、登録会が実施できたのは7校のみでした。この7校で112人の登録があり、教員1人を除くと登録者は全員18歳でした。若年層登録推進を考えると中止は残念です。

献血を実施する高校でも分散登校や時短の影響があり、献血者数はコロナ禍以前と比べると約半数に減少しています。

コロナ禍による献血中止は大学や一般献血団体でも散見され、血液製剤の不足も懸念されます。

(沖縄県骨髄バンクを支援する会
代表 上江洲富夫)

クラウドファンディングの経過報告

この記事をご皆さんがご覧になるのは4月のため、既にクラウドファンディング「白血病患者さんに移植費用を届けたい。きち子基金継続にご協力を!」は終了していますが、今、3月28日朝の時点で支援者423人、総額8,066,000円の寄付が集まっています(これ以外に現金書留による寄付も続いています)。レディフォーのデータによると約85%の方が、「関係者以外」ということで、350人以上の見も知らぬ人が白血病患者さんのことを想い、そして寄付してくれています。つくづくと患者支援基金は社会の皆様が支えてくれているのだ、とありがたく感じるとともに、もっと広く社会の皆様には血液難病のことを知ってもらえないかと感じています。そして支援の輪を広げていきたいと思っています。

次号ではクラウドファンディングの結果を集計し、詳しい結果を皆様への感謝とともに報告する予定です。

心からのご寄付に感謝申し上げます ●2月21日~3月20日(敬称略)

●一般	山田 久美子 現金 30,000円	旭葉ナナカマド薬局 現金 8,102円
藤波 敬子 現金 10,000円	竹田 幸子 現金 30,000円	足立眼科病院 現金 14,461円
植野 良一 現金 30,000円	塩谷 圭 現金 1,000円	医療法人社団 今内科消化器科 現金 4,442円
赤代 真也 現金 5,000円	円東 克典 現金 40,000円	株式会社クスリのアオキ 現金 1,292,930円
松本 一彦 現金 30,000円	●募金箱	株式会社カンセキ西川田店 現金 7,040円
中村 稔 現金 10,000円	株式会社クスリのアオキ	設計工房夢家 石田 勝 現金 3,000円
長谷川 義彦 現金 6,000円	株式会社 マルト商事 現金 76,539円	●つながる募金
土田 謙次 現金 1,000円	株式会社 ナルクス 現金 5,462円	現金 15,500円
匿名 現金 3,000円	グリーン薬局 現金 7,450円	
●佐藤きち子造血細胞移植患者支援基金		
山本 美紀子 現金 20,000円		
尾関 良平 現金 9,000円		
万々 宏 現金 100,000円		

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754 普通 5666655

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会